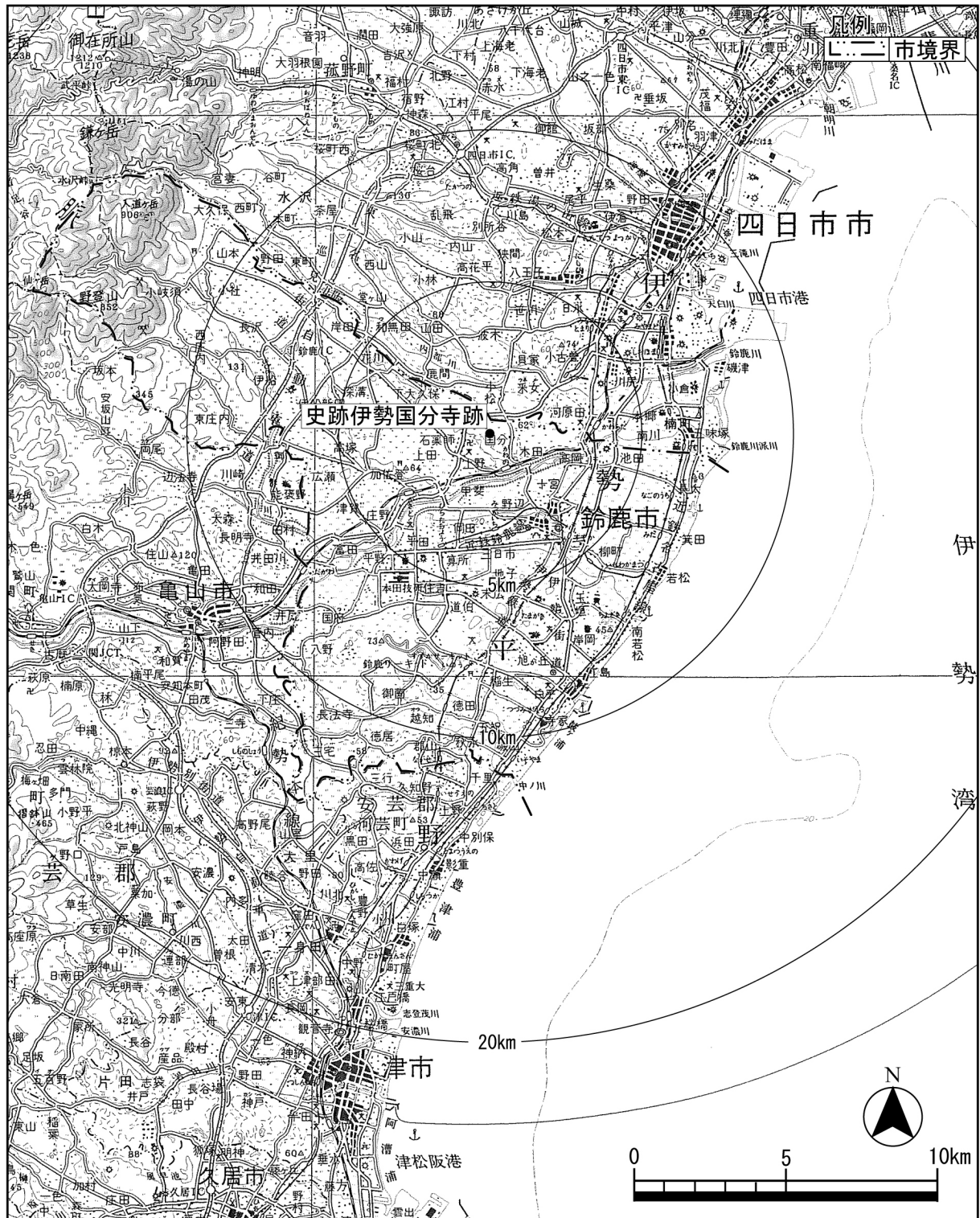


# 第1章 史跡伊勢国分寺跡の立地環境等

## (1) 位置

鈴鹿市は三重県の中北部、四日市市と津市との間に位置する。東は伊勢湾に臨み、北部から西南部にかけては50～80mの丘陵地を形成し、一部は鈴鹿山脈に達し、滋賀県に接している。

史跡伊勢国分寺跡は、鈴鹿市のほぼ中央北端部の鈴鹿市国分町に所在する。市のほぼ中央部を東流して伊勢湾に流れ込む鈴鹿川の左岸台地上には農地が広がり、その一部に史跡伊勢国分寺跡は立地し、鈴鹿市の中心市街地からは北方へ約3km、最寄り駅のJR関西本線河曲駅から北方約1.5kmの地点に位置する。



位置図

## (2) 自然環境

### ① 気候

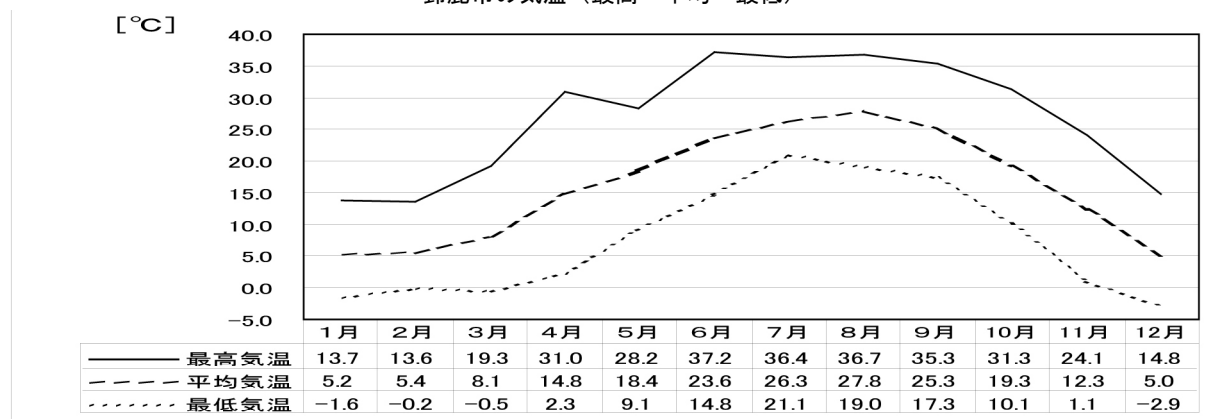
鈴鹿市の気候区分は、東日本型気候区の東海・関東型に含まれ、9～10月に降雨量が多い。平成12年から平成17年までの6年間の気温及び降水量は、年平均気温16.2℃、年平均降水量は1,505.8mmで、同期間の最高気温は39.8℃、最低気温は-3.2℃となっており、冬季に冷え込みが厳しい日もあるものの、鈴鹿市の気候は四季を通して比較的温暖である。

気象概要一覧表

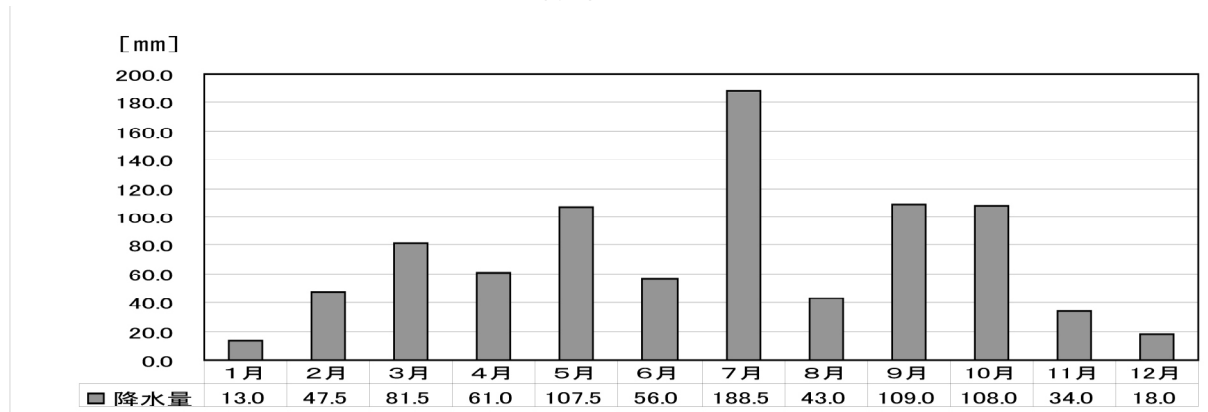
年次	気温 (℃)			降水量 (mm)
	平均	最高	最低	
平成12年	16.3	38.6	-2.6	1,693.5
平成13年	16.0	39.8	-2.6	1,576.5
平成14年	16.4	39.1	-1.9	1,180.0
平成15年	15.9	37.1	-3.2	1,727.5
平成16年	16.5	38.4	-3.1	1,990.5
平成17年	16.0	37.2	-2.9	867.0
平均値	16.2	38.4	-2.7	1,505.8

資料：鈴鹿市統計要覧／平成16年度、消防年報／平成17年度

鈴鹿市の気温（最高・平均・最低）

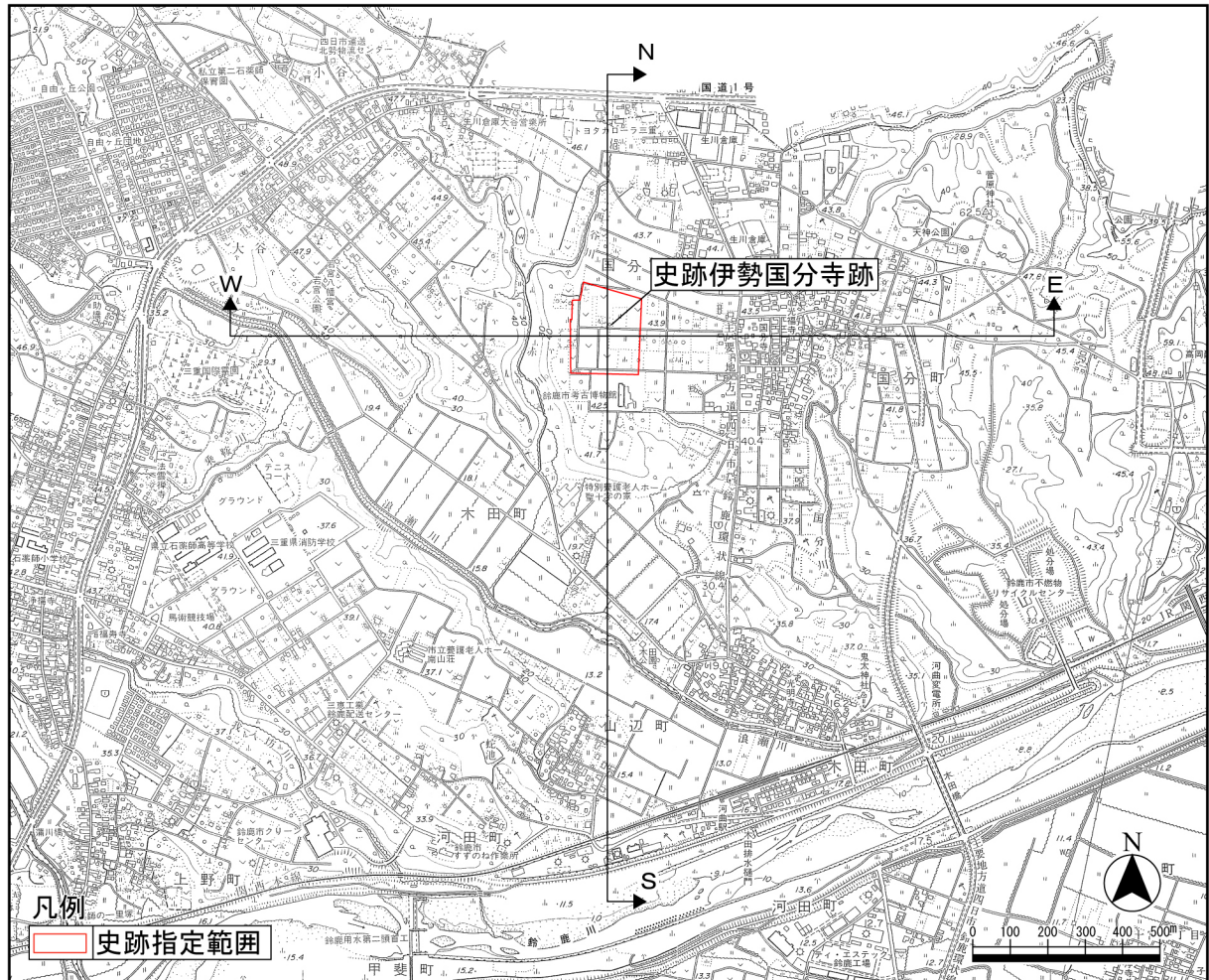


鈴鹿市の降水量

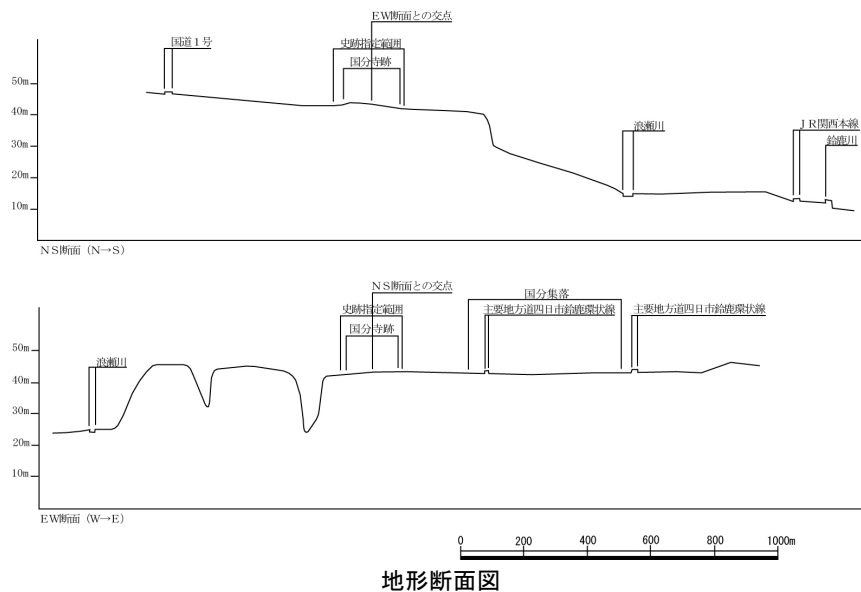


## ② 地形

史跡伊勢国分寺跡が所在する鈴鹿川の左岸、旧内部川扇状地の先端部は標高約15～60mの範囲で複雑に入り組んだ谷を持つ台地となっており、史跡伊勢国分寺跡周辺の標高は40m前後で地形断面は、北部が標高約43m、中央部はやや高く標高約44mを測り、南部は標高約42mであり、南に向かって緩やかに傾斜している。



地形断面位置図



地形断面図

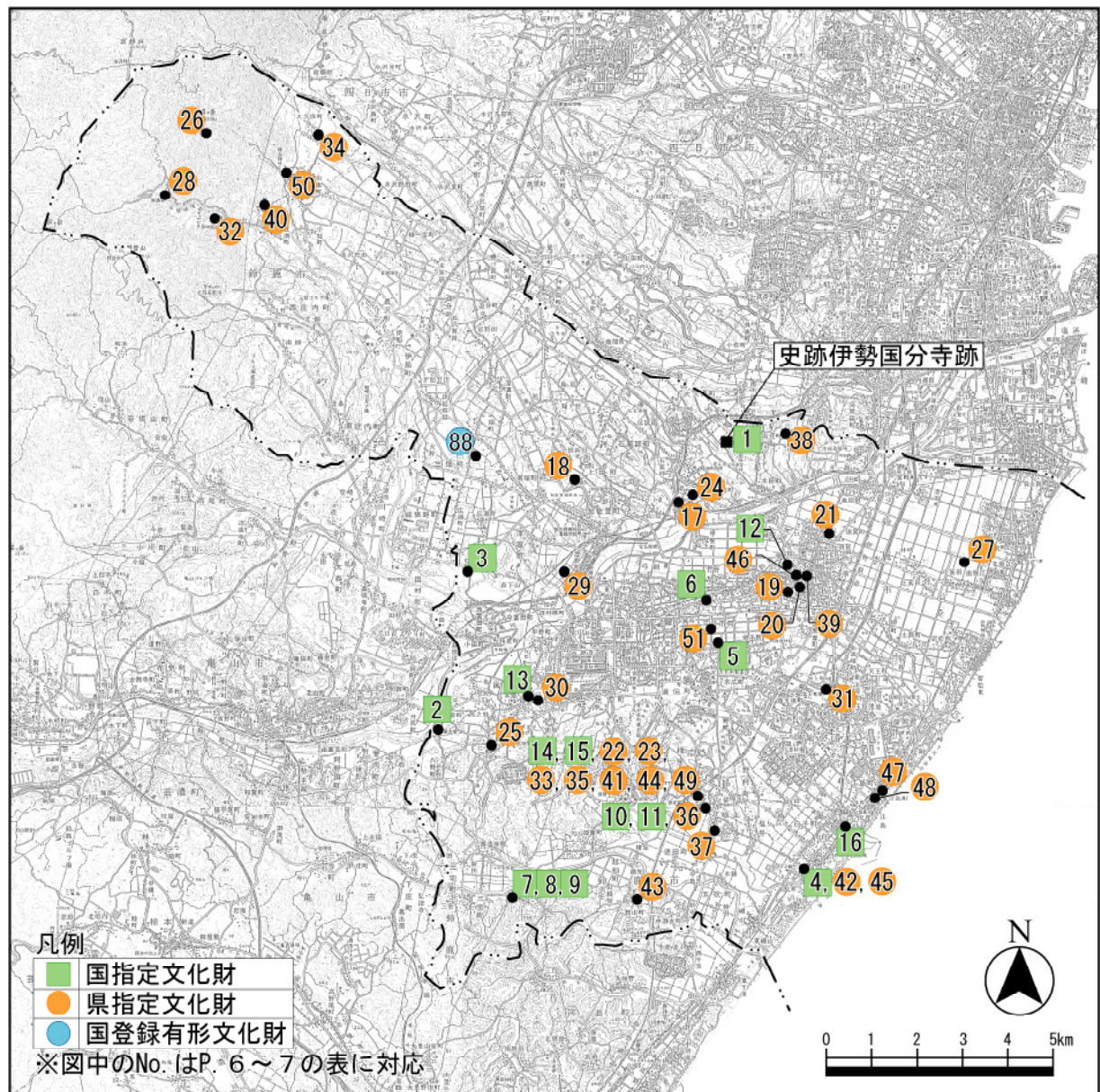
### (3) 歴史的環境

#### ① 鈴鹿市の歴史的環境

鈴鹿市は、昭和17年12月に2町12か村が合併し軍都として誕生した市である。市の中心である神戸地区は、江戸時代には伊勢街道の宿場町、本多氏1万5千石の城下町として知られている。また、白子地区は海運業を中心に大変なにぎわいを呈し伊勢型紙業が発展した。石薬師地区と庄野地区は東海道の44・45番目の宿場として知られている。

#### ② 鈴鹿市の指定文化財

平成18年4月1日現在、国指定16件、県指定35件、市指定36件の文化財があり、指定文化財総数は87件（平成18年4月1日現在）となっている。このことから豊富な文化財に恵まれていることが分かる。国指定では史跡伊勢国府跡、史跡伊勢国分寺跡、史跡王塚古墳をはじめ、天然記念物2件、彫刻9件、工芸品1件等がみられる。このほか旧石器時代から中・近世にわたる各時代の遺跡が市内各地に分布し、三重県内でも遺跡が集中する地域として知られ、古代から栄えた土地であることを示している。



鈴鹿市指定文化財分布図

鈴鹿市指定文化財一覧  
国指定文化財

番号	名称	員数	種別	区分	指定年月日
1	伊勢国分寺跡		記念物	史跡	大正11年10月12日
2	王塚古墳	1基付陪塚	〃	〃	昭和45年5月11日
3	伊勢国府跡		〃	〃	平成14年3月19日
4	白子不断ザクラ		〃	天然記念物	大正12年3月7日
5	金生水沼沢植物群落		〃	〃	昭和12年4月17日
6	木造善然上人坐像	1軀	有形文化財	彫刻	明治45年2月8日
7	木造大日如来坐像	〃	〃	〃	大正2年8月20日
8	木造大日如来坐像	〃	〃	〃	大正2年8月20日
9	木造釈迦如来坐像	〃	〃	〃	大正2年8月20日
10	木造多聞天立像 木造持国天立像	〃 〃	〃 〃	〃 〃	大正2年8月20日 (2軀で1件の指定)
11	木造薬師如来立像	〃	〃	〃	大正4年3月26日
12	木造千手観音立像	〃	〃	〃	大正5年8月17日
13	木造金剛力士立像	2軀	〃	〃	昭和31年6月28日
14	木造男神坐像	1軀	〃	〃	平成3年6月21日
15	木造扁額	3面	〃	工芸	明治45年2月8日
16	伊勢型紙		無形文化財	工芸技術	平成5年4月15日

県指定文化財

番号	名称	員数	種別	区分	指定年月日
17	石薬師の一里塚跡		記念物	史跡	昭和12年8月27日
18	白鳥塚古墳	1基	〃	〃	昭和12年11月10日 (前方部を追加指定:平成18年3月17日)
19	神戸城跡		〃	〃	昭和12年12月14日
20	教倫堂跡		〃	〃	昭和17年4月27日
21	神戸の見付		〃	〃	昭和63年3月26日
22	稲生山のツツジ		〃	名勝	昭和12年6月30日
23	伊奈富神社庭園		〃	〃	昭和57年4月27日
24	石薬師の蒲ザクラ		〃	天然記念物	昭和14年8月10日
25	西の城戸のヒイラギ		〃	〃	昭和18年7月9日
26	入道岳イヌツゲ及びアセビ群落		〃	〃	昭和37年2月14日
27	長太の大クス	1本	〃	〃	昭和38年1月11日
28	小岐須の屏風岩		〃	〃	昭和40年12月9日
29	川俣神社のスダジイ	1本	〃	〃	昭和44年3月28日
30	アイナシ	1株	〃	〃	昭和47年4月1日
31	地蔵大マツ	1本	〃	〃	平成8年3月7日
32	石大神	1峯	〃	〃	平成8年3月7日
33	勢州稲生村三社絵図	1幅	有形文化財	絵画	平成12年3月17日
34	木造薬師如来坐像	1軀	〃	彫刻	昭和31年5月2日
35	伊奈富神社神宝	18点	〃	〃	昭和37年2月14日
36	木造男神坐像	1軀	〃	〃	昭和37年2月14日
37	木造釈迦如来坐像	〃	〃	〃	昭和37年2月14日
38	木造天神坐像	〃	〃	〃	昭和46年3月17日
39	銅造阿弥陀如来立像	〃	〃	〃	平成14年3月18日
40	銅鐘	1口	〃	工芸	昭和27年7月9日
41	陶製三足壺	1個	〃	〃	昭和45年2月25日
42	銅燈籠	1基	〃	〃	昭和47年4月1日
43	酒井神社古文書	20通	〃	古文書	昭和56年3月30日
44	伊奈富神社の棟札	73枚	〃	〃	昭和62年3月27日

45	観音寺仁王門	1棟	有形文化財	建造物	昭和47年4月1日
46	書院	〃	〃	〃	昭和48年3月31日
47	江島若宮八幡神社絵馬群	71面	民俗文化財	有形民俗文化財	昭和50年3月27日
48	朝鮮通信使行列図染絵胴掛	1枚	〃	〃	平成12年3月17日
49	伊奈富神社の獅子神楽		〃	無形民俗文化財	昭和38年1月11日
50	椿大神社の獅子神楽		〃	〃	昭和38年1月11日
51	オンナイ念仏会		〃	〃	昭和50年3月27日

市指定文化財

番号	名称	員数	種別	区分	指定年月日
52	西の野5号墳	1基	記念物	史跡	昭和49年11月25日
53	大黒屋光太夫供養碑	〃	〃	〃	昭和61年3月27日
54	寺尾家住宅	1棟	〃	〃	平成6年3月11日
55	大木神社の椎の森		〃	天然記念物	昭和54年6月1日
56	京新田のキリシマ	1本	〃	〃	昭和56年7月10日
57	仏涅槃図	1幅	有形文化財	絵画	平成12年3月10日
58	光明本尊	1件	〃	〃	平成元年7月6日
59	聖徳太子及び真宗先徳連坐像	〃	〃	〃	平成2年10月11日
60	木造釈迦如来坐像	1軀	〃	彫刻	昭和54年6月1日
61	石薬師の石仏	〃	〃	〃	昭和59年3月12日
62	木造薬師如来立像	〃	〃	〃	昭和60年4月30日
63	木造観音菩薩立像	〃	〃	〃	昭和60年4月30日
64	木造阿弥陀如来立像	〃	〃	〃	昭和60年4月30日
65	木造地藏菩薩半跏像	〃	〃	〃	平成7年9月20日
66	木造阿弥陀如来立像	〃	〃	〃	平成9年7月24日
67	木造阿弥陀如来立像	〃	〃	〃	平成16年8月26日
68	神戸城二重櫓の鯨	1基	〃	工芸	昭和49年11月25日
69	光明真言板碑	1基	有形文化財	工芸	昭和51年4月1日
70	光明真言碑	〃	〃	〃	昭和60年4月30日
71	神戸城一重櫓の鯨	1対	〃	〃	平成2年10月11日
72	三教堂の額	1扁	〃	書跡典籍	昭和51年4月1日
73	朴徳源筆體用山	1面	〃	〃	平成16年8月26日
74	大黒屋光太夫らの帰郷文書	1括	〃	古文書	平成4年3月17日
75	上箕田遺跡出土品	〃	〃	考古資料	昭和49年11月25日
76	三角縁神獸鏡	1面	〃	〃	平成4年3月17日
77	椎山中世墓出土陶器石仏	70点・2点	〃	〃	平成12年3月10日
78	蓮花寺鐘楼	1棟	〃	建造物	昭和57年7月27日
79	石薬師寺薬師堂	〃	〃	〃	平成1年7月6日
80	悟真寺本堂	〃	〃	〃	平成4年3月17日
81	旧小林家住宅	2棟付棟札	〃	〃	平成8年3月12日
82	勝速日神社祭礼用山車	4台	民俗文化財	有形民俗文化財	昭和49年11月25日
83	広瀬のかんこ踊り		〃	無形民俗文化財	昭和49年11月25日
84	唐人おどり		〃	〃	昭和51年4月1日
85	長太鯨船行事		〃	〃	平成4年3月17日
86	都波岐神社中戸流獅子舞		〃	〃	平成12年3月10日
87	久久志弥神社獅子舞		〃	〃	平成11年3月31日

国登録有形文化財

番号	名称	員数	種別	区分	指定年月日
88	旧北伊勢陸軍飛行場掩体	1基	有形文化財	建造物	平成16年2月17日

(※番号はP.5の図に対応)

#### (4) 社会環境

##### ① 人口

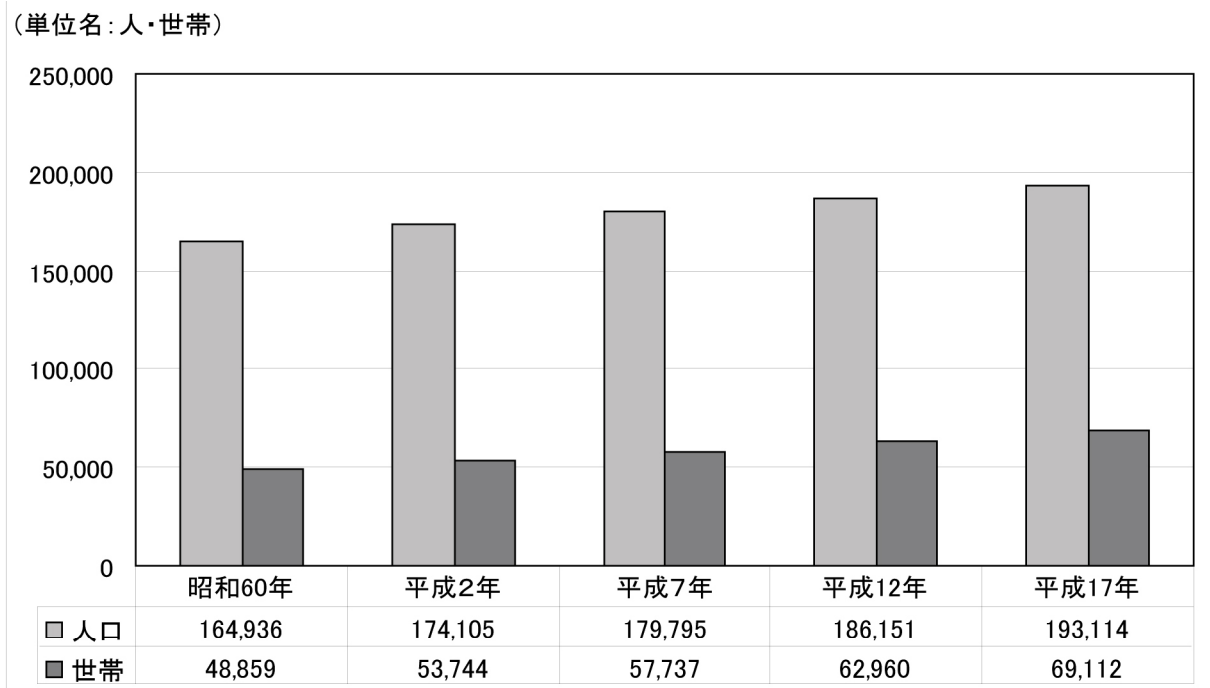
鈴鹿市の人口は、平成17年10月1日現在で193,114人、世帯数は69,112世帯である。人口動向は近年増加傾向にあり、昭和60年から平成17年の20年間で約20%の伸び率である。また、世帯数は約50%の伸び率をみせている。

史跡伊勢国分寺跡のある国分町では、人口で8.9%、世帯数で41.9%と人口においては鈴鹿市全体の伸び率に及ばないものの、世帯数の伸び率においてはほぼ鈴鹿市全体の伸び率と同じである。また、西側の木田町、山辺町でも増加傾向をみせている。

しかしながら、各町とも人口の増加率に比べて5倍程度の世帯数の伸びがみられ、これは全国的にみられる少子化・高齢化等による核家族化の傾向を示しているといえる。

この地域での人口増加は、今後とも進展することが予想され、鈴鹿市の新しい人口集積地としての発展が期待されている。

鈴鹿市の人口と世帯数



資料：国勢調査による

人口・世帯数の動向

町名	人口・世帯年	人 口			世 帯		
		昭和60年	平成17年	伸び率	昭和60年	平成17年	伸び率
国分町		886	965	8.9	210	298	41.9
木田町		929	1,018	9.5	284	329	15.8
山辺町		273	382	39.9	106	168	58.4
合 計		2,088	2,365	13.2	600	795	32.5

※伸び率(%) = (平成17年度/昭和60年 - 1) × 100

資料：昭和60年10月1日現在住民基本台帳による

平成17年3月1日現在住民基本台帳+外国人登録者数による

## ② 道路・交通

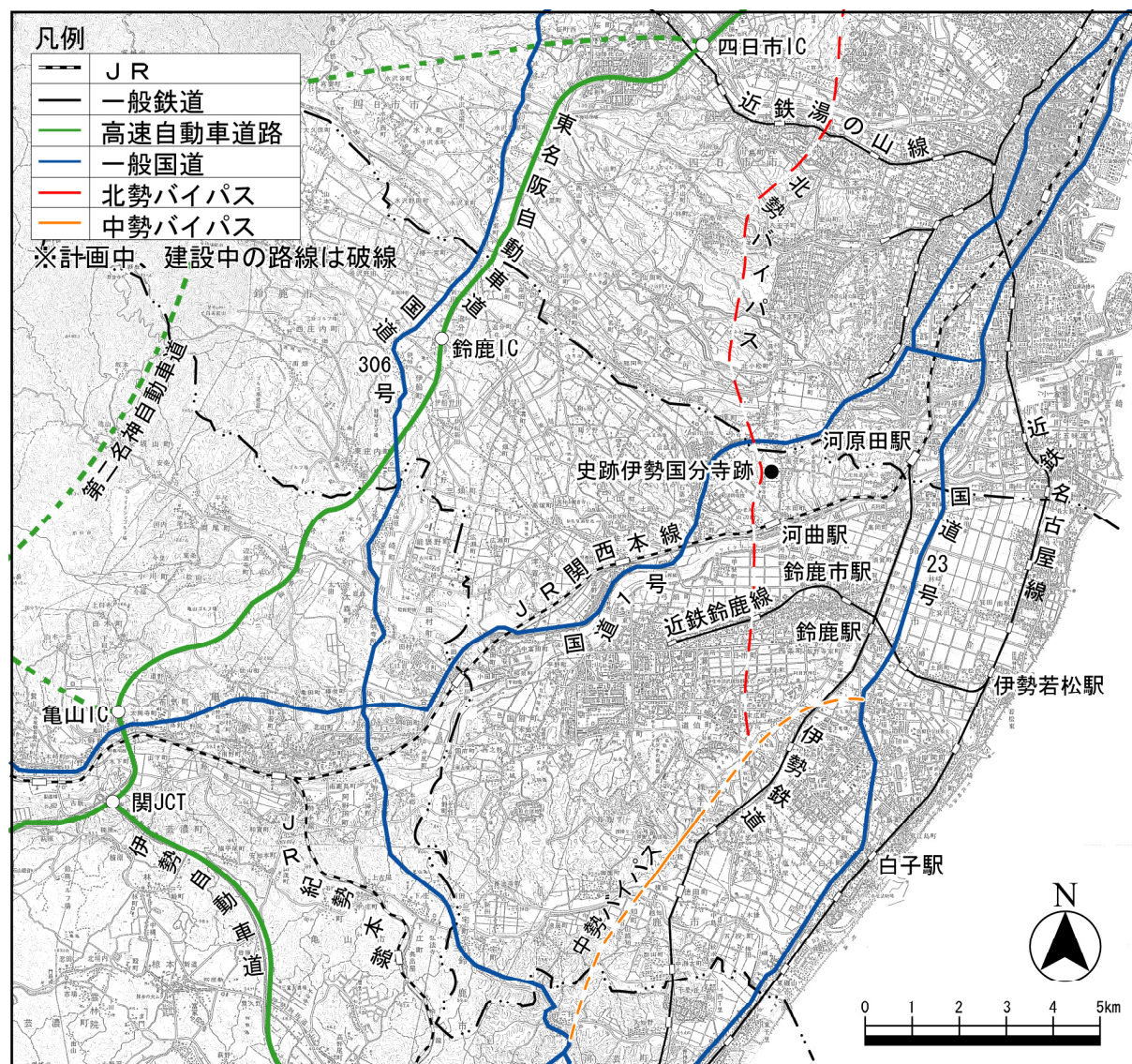
鈴鹿市の道路網は、東名阪自動車道、国道1号、国道23号、国道306号等幹線道路を軸とし、これらに県道、市道が連結している。鈴鹿市には広域交通軸である東名阪自動車道を利用して、名古屋から約40km、大阪から約120km、京都から約130kmの距離にあり、中部圏はもとより近畿圏からも比較的近い距離にある。

史跡周辺の計画道路としては、市の南北方向の幹線道路となる北勢バイパスがあり、計画地の北西部で国道1号と接続して、市街地からのアクセスは向上する。

史跡伊勢国分寺跡へのアクセスは、現況道路を利用する場合は、国道23号から県道を利用するか、国道1号から県道を利用することが考えられる。

一方、鉄道は、JR関西本線、伊勢鉄道、近鉄名古屋線、近鉄鈴鹿線が運行されており、近鉄名古屋線白子駅へは名古屋から約40分、大阪鶴橋から約1時間40分、京都からは八木乗り換えで約2時間で到達できる。また、鈴鹿駅にはJR、伊勢鉄道を利用して、名古屋から約40分、大阪から約2時間30分で到達できる。

史跡伊勢国分寺跡に最寄りの鉄道駅はJR関西本線河曲駅であり、史跡指定地より南に約1.5kmの距離にある。



道路・交通網図



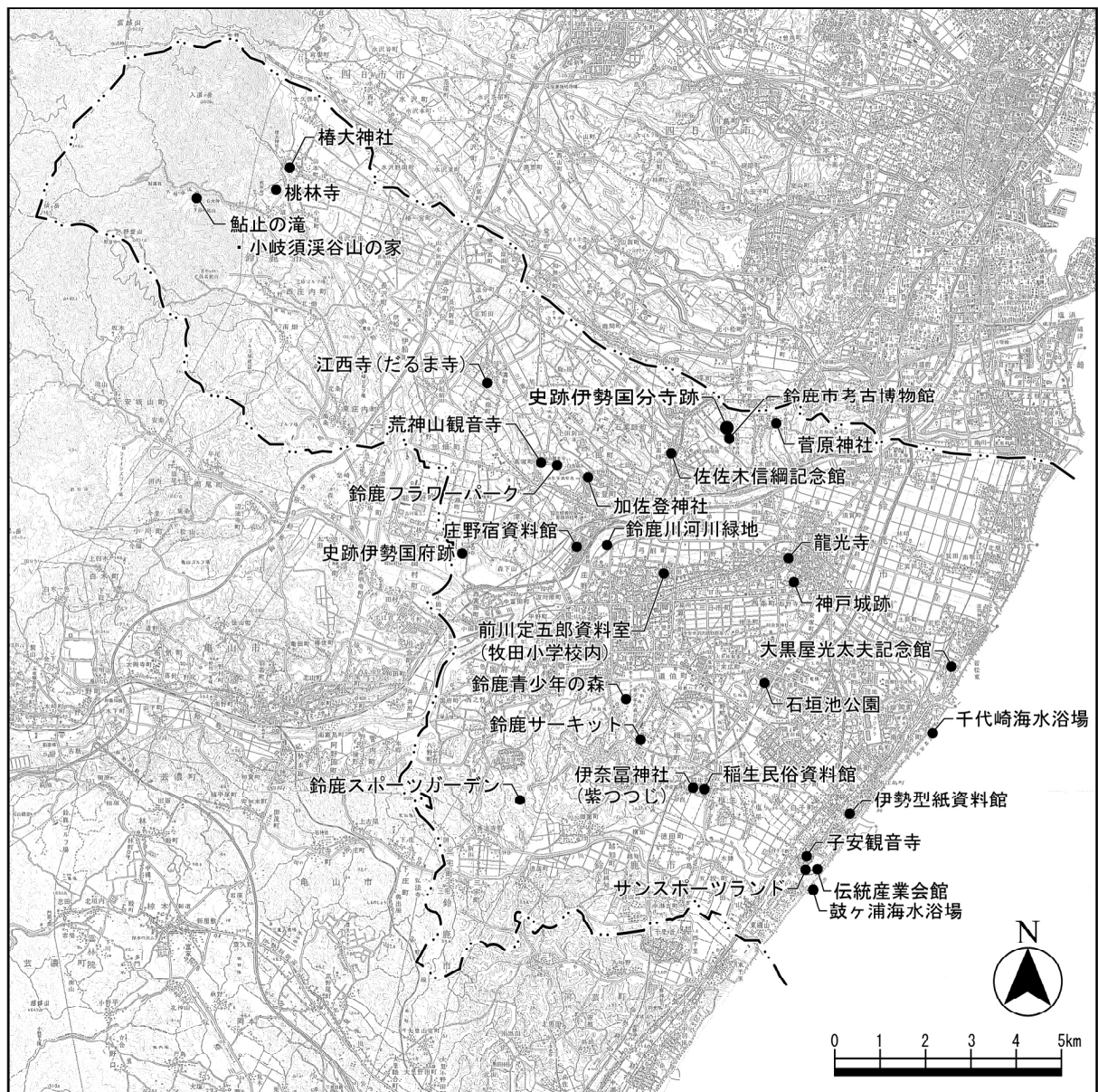
### ③ 観光・レクリエーション

鈴鹿市の観光入込客数は、平成17年で年間約450万人であり、平成3年に約535万人を記録しているが、最近5年間にはほぼ横ばい状態にある。

入込客数の多い主な観光地は、鈴鹿サーキット約245万人、椿大神社約127万人、青少年の森約31万人であり、鈴鹿市考古博物館では平成10年の開館以来、年間約1万人の入館者を数える。これ以外にも千代崎や鼓ヶ浦の海水浴場や加佐登神社、小岐須溪谷等の自然や歴史的資源を活用した観光地がみられるが、歴史的文化的な資源の活用の充実が望まれている。

また、レクリエーション施設としては鈴鹿川河川緑地や石垣池公園、県営鈴鹿スポーツガーデン等のスポーツ施設が多くの市民に利用されている。

史跡伊勢国分寺跡周辺では、東方の丘陵にある菅原神社周辺が梅の名所となっている。また、旧東海道沿いには佐佐木信綱記念館や庄野宿資料館がある。



観光・レクリエーション施設分布図

#### ④ 公園・緑地

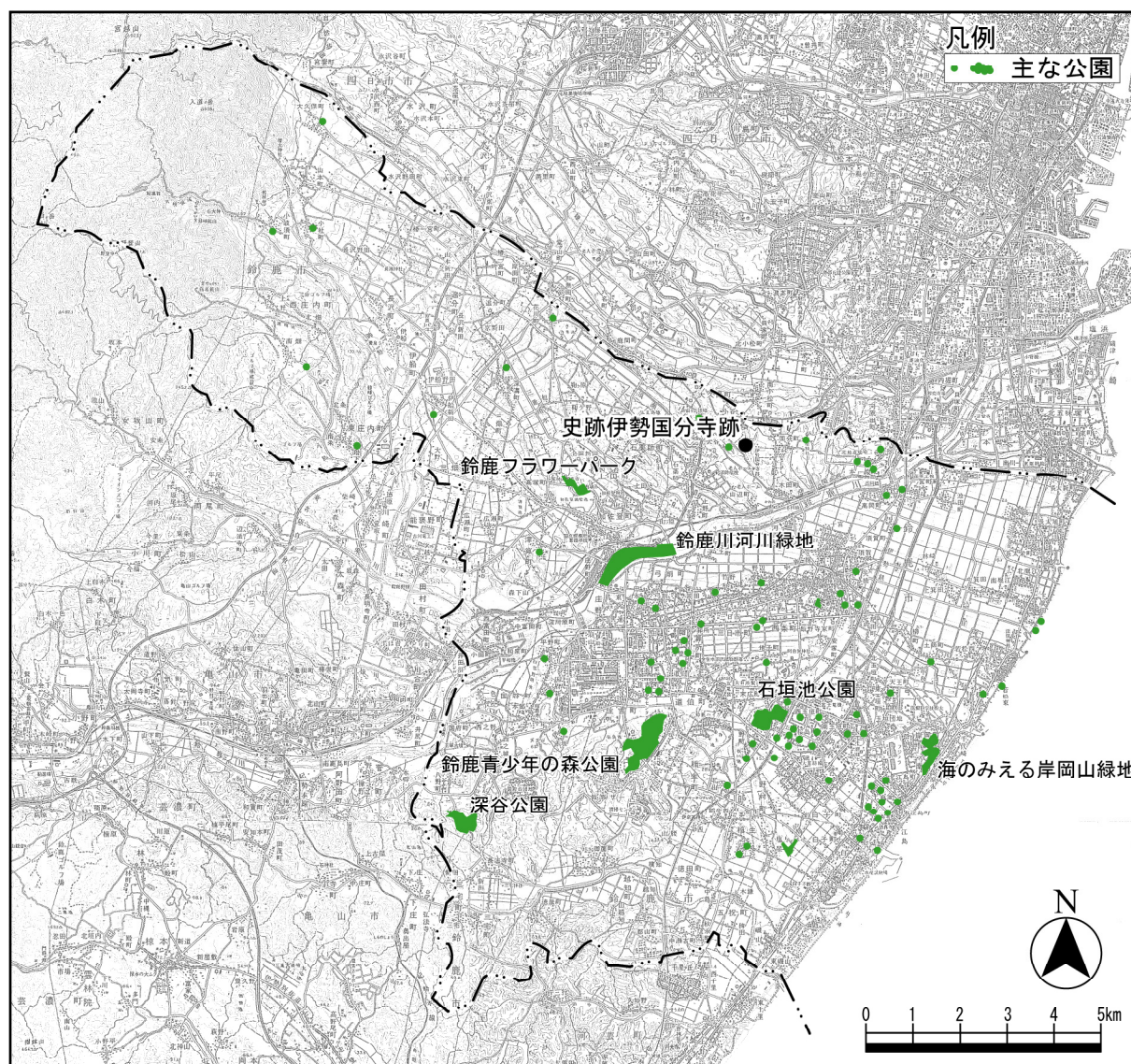
鈴鹿市の都市公園は、県営の鈴鹿青少年の森をはじめ、鈴鹿フラワーパーク（総合公園）、石垣池公園（運動公園）等の都市基幹公園、海のみえる岸岡山緑地、鈴鹿川河川緑地等の都市緑地、徒歩圏を誘致範囲とした住区基幹公園があり、市全体で252か所、162.41ha（平成18年3月31日現在）の都市公園が設けられている。

市民一人当たりの都市公園面積は8.12㎡（平成18年3月31日：199,975人）となっており、都市公園法に定められた市域一人当たり面積の標準値10㎡と比較すると、これら公園の整備が求められている。また、都市公園は、都市基盤整備済みの地区に集中して設けられており、都市基盤未整備地区での不足が目立っている。

このほか、鈴鹿市には自然公園としての鈴鹿国定公園や伊勢の海県立自然公園があるが、これらについても保全と活用が望まれている。

都市公園			
区分	公園数	面積 (ha)	
都市基幹公園	総合公園	2	61.20
	運動公園	1	23.42
住区基幹公園	地区公園	4	11.99
	近隣公園	8	10.26
	街区公園	234	29.85
	都市緑地	3	25.69
合計	252	162.41	

資料：鈴鹿市市街地整備課（平成18年8月31日現在）



公園緑地分布図

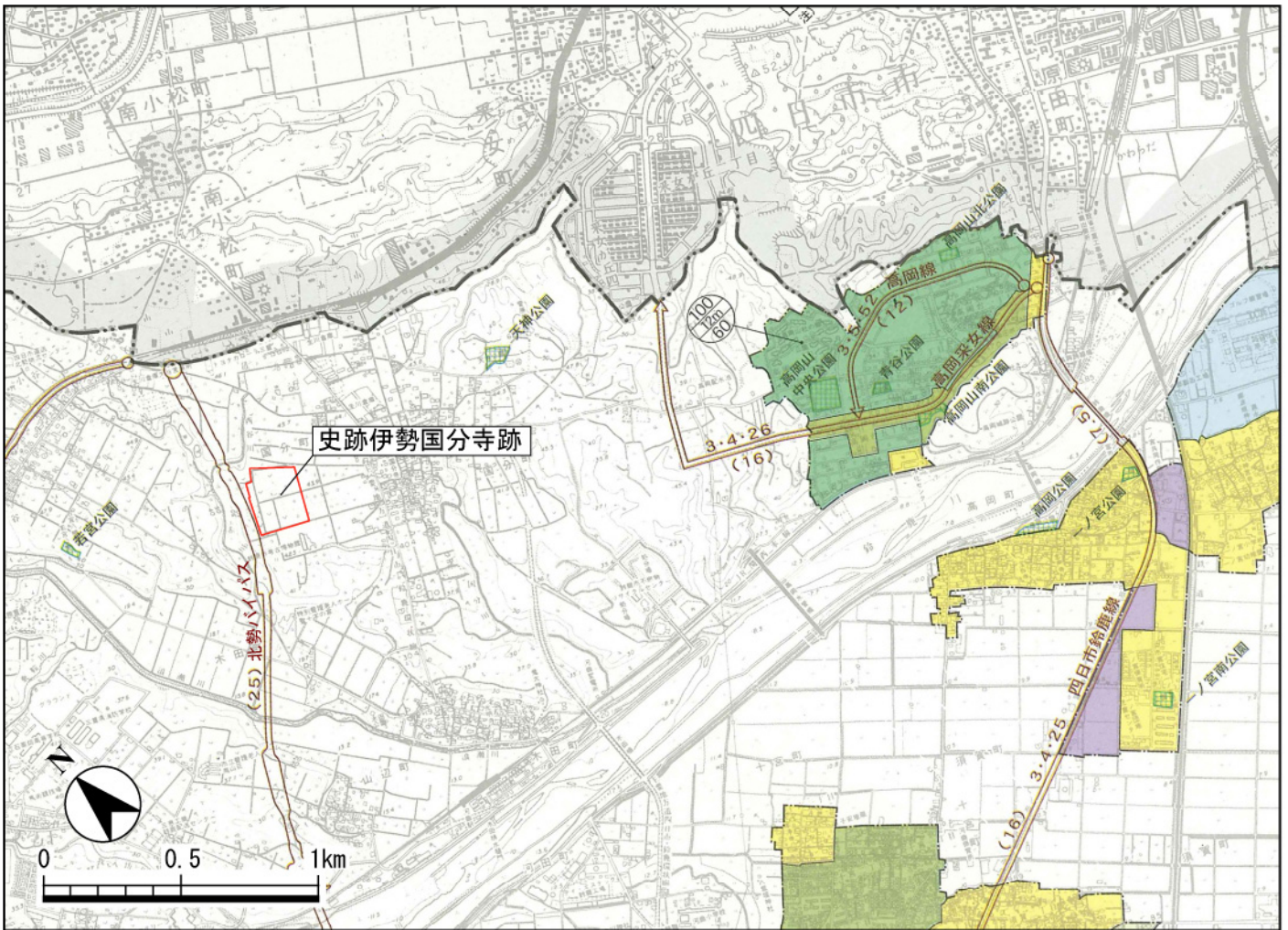
⑤ 法規制

史跡指定地は文化財保護法による国史跡に指定されている。

この周辺一帯は都市計画法による鈴鹿都市計画区域に含まれ、概ね、市街化調整区域となっているが、東部の高岡町の一部は市街化区域で第1種低層住居専用地域等住居系用途地域に指定されている。

また、都市計画道路として、国道1号から東部の市街地を結ぶ北勢バイパス（3・1・28）、高岡采女線（3・4・26）、高岡線（3・5・52）が計画決定されている。このうち北勢バイパスは史跡指定地の西側を南北に貫くことになる。

このほか、史跡指定地及び周辺は農業振興の整備に係る法律における農業振興区域となっている。



凡例

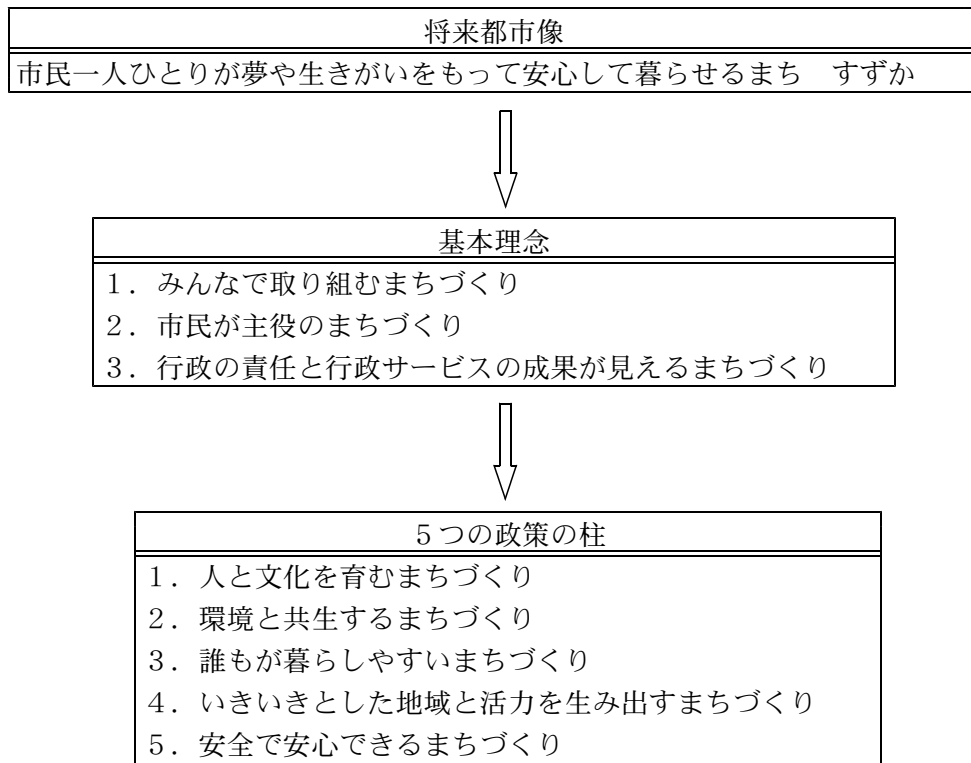
記号	内容	記号	内容
	都市計画区域		第一種中高層住居専用地域
	市街化区域		第一種住居地域
	行政界		準工業地域
	都市計画道路		都市計画公園
	第一種低層住居専用地域		史跡指定地

法規制図

## (5) 上位関連計画等

### ① 第5次鈴鹿市総合計画 -みんなで築く鈴鹿夢プラン-

第5次鈴鹿市総合計画は平成18年3月に策定され、計画期間は平成18年度から平成27年度までの10年間としている。計画は3年ごとに見直しを行い、単位施策として毎年進捗状況を確認・公表する。また、鈴鹿市のめざす将来都市像を『市民一人ひとりが夢や生きがいをもって安心して暮らせるまち すずか』と定め、まちづくりを進めるものとしている。



5つの政策の柱のうち『1. 人と文化を育むまちづくり』には、『「生きる力」を生涯にわたり育むまちをつくります』と『魅力ある「すずか文化」を受け継ぎ、生み出していきます』を基本構想として示している。このなかで、伊勢国分寺跡の整備に関しては、『魅力ある「すずか文化」を受け継ぎ、生み出していきます』の施策-6：『伝統文化の保護・保存・継承』に『文化遺産を保護・保存し、次世代に継承するとともに、市民の文化遺産に対する関心を高め、活用の機会充実に努めます。』とあり、ここに位置付けられる。

## ② レインボウ・ヒルズ計画 -歴史と未来の架け橋-

レインボウ・ヒルズ計画は平成元年に策定され、鈴鹿市の不燃性廃棄物の処理、処分を適正に行うとともに、土地造成の効果を活用して地域の整備を図ることを目的にしている。史跡伊勢国分寺跡の南東約2kmに、約26haの埋立処分地と不燃・粗大ごみ処理施設を建設するものである。

レインボウ・ヒルズ計画では、計画の対象地となる国分地区を、ごみ処理場と埋め立て処分地の整備を契機に、整備構想がまとめられている。その中で史跡伊勢国分寺跡をはじめとする文化財に関係するものを抜粋し掲載した。

### ●整備構想

#### <開発整備の概念>

対象地区の開発整備を考えるキーワードの一つとして

- ・歴史、文化

国分寺跡を中心に、鈴鹿市の歴史的遺産を活用した地区整備が掲げられている。

#### <導入機能、施設>

対象地区への導入機能、施設の一つとして

- ・歴史公園の整備

鈴鹿市博物館建設懇話会とも調整しつつ、国分寺跡を活用し、レクリエーション機能をもったにぎわいのある歴史公園として整備を図る。としている。

#### <緑のネットワーク形成>

緑のネットワーク形成は、良好な市街地環境、アメニティの形成のためにも必要なものである。

当地区では、国分寺跡、天神公園、菅原神社、高岡城跡、鈴鹿側サイクリングロード等を結ぶ歩行者、自転車の為の道路等の整備を図ることにより「歴史のみち」的な緑のネットワーク化が図れる。

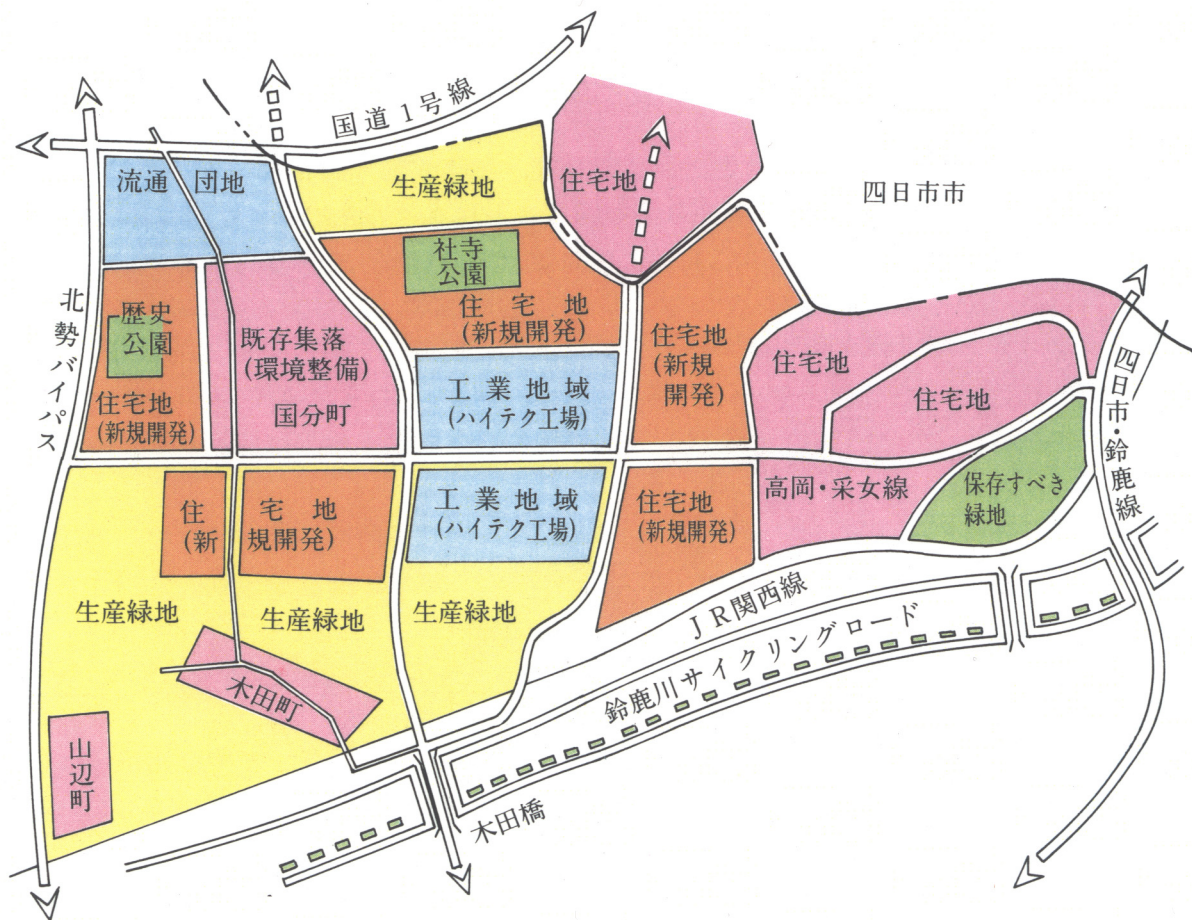
としている。

#### <土地利用構想と交通計画>

土地利用構想と交通計画は、図(15頁)のように考えられるが、主なものは次のとおりである。

- ・歴史公園は、国分寺跡地に建設する。
- ・地区の東西方向の骨格道路は高岡采女線を西側に延長するものとする。南北方向の幹線は3本とし、1本目は地区西端の北勢バイパスとし、2本目は地区中央部を徹る県道四日市鈴鹿環状バイパスであり、3本目は廃棄物処理事業の搬入路を高岡采女線に接続する道路とする。

としている。



土地利用構想と交通計画図

<今後の課題>

計画を進めていくにあたり、今後の課題として

- ・北勢バイパス等の関連道路の整備の促進を図る必要がある。
- ・JR関西本線の輸送力向上及び対象地区付近での既存駅の整備拡充と交通アクセスの整備を図る必要がある。
- ・乱開発を防ぎ、計画的な市街地整備を図るため、地元主導のマスタープランづくりが必要である。

等が示されている。